

■ NEWS 02

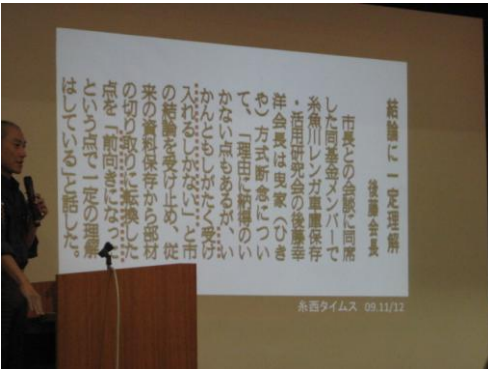
赤煉瓦ネットワーク糸魚川大会



▲赤レンガ車庫（写真1）



▲主催者（右）（写真2）



▲長岡造形大学 平山教授の講演（写真3）



前回の東京大会からあつという間の1年が過ぎ、今年度の全国大会は新潟県の糸魚川市！糸魚川構造線が通り「ジオパーク」で売り出し中の街です。参加者は、馬場理事長、名畑氏、山口氏、私（小林）の4名です。「おはようございます」と6:50分に予定通りに出発！山口氏はまだ眠そうです。それもそのはず、明け方まで今大会用のプレゼン資料をつくっていたそうです。ゴク로우サマデス。名古屋駅を出発と同時になにやらごそごとと名畑氏と馬場理事長は4合瓶をあげ乾杯！！およそ24分で完売！

13時30分、良い気分で会場に到着しました。（毎度のことですが反省がありません。）受付終了後、先に市内見学会。最初に、今回のテーマである「赤煉瓦の車庫」。大正元年に北陸線の全通と同時に建造された建物ですが、北陸新幹線の駅舎建設のために取壊しが予定されています。現役の鉄道車庫で、見学に時間制限があったため、時間いっぱいまで見学した後、酒蔵、雪国ならではの雁木を見学し、会場に戻りました。

会場では、一般の方も同席して講習会。まず、主催者より「赤レンガ車庫」の経過について説明がありました。最初は検討もなく取り壊しだったものが、建物保存活用研究会や糸魚川商工会議所などが保存運動を行い、運動の結果、保存を検討することになりました。しかし、最終的には行政側は資金や今後の工事計画に基づいて判断され、全面保存は不可能という結論になってしまったとのこと。現在は「空間を感じられる」部分保存を目指しています。（写真2）

引き続き、長岡造形大学の平山教授から糸魚川の機関車庫の由来・意義や、保存の手法について講演会がありました。様々な資料・写真を使って、北陸線が全通した頃の時代背景・機関車庫の特徴・この街と赤煉瓦車庫の関わり、「資料保存」「部分保存」「全面保存」の違いなどの分かりやすい説明で、部分保存でも「空間を感じられる保存」の大切さがよく分かりました。（写真3）

最後に、各地の倶楽部の活動報告会がありました。北海道・江別は、今回の糸魚川の保存活動を援護射撃する「曳き家」の事例紹介をし、興味深いものでした。そして半田の発表。馬場理事長は、山口氏の徹夜のプレゼン資料を、ほとんど無視してマイペースで報告され、時間通りに無事終了しました。

メインイベントは大交流会！！解禁直後のカニや地酒、地元の珍味など盛りだくさんのお料理でテーブルいっぱいならんでいました。なかでも見た目は怖い怪獣のような富山湾の深海魚「ゲンゲ」の干物、きれいのいい美味しい日本酒「謙信」などを、おいしくいただきました。大会事務局の皆様、おもてなしいたいただき、ありがとうございました。

1次会が終わるとすぐに2次会の連絡。名畑氏より号令がありお店に急行しました。すでに、今大会事務局長を中心に大会関係者が集結し、前進的な話で盛り上がっていました。楽しい時が過ぎ、2次会解散。ここで終了かと思いきや、まだまだ続きます。おなか減ったし地元のラーメンでもたべようかと皆大賛成！糸魚川でしか味わえないヒスライメンなるものをいただきました。ここで、あの名畑氏の突然の叫び！「のどが乾いた！」日本酒2合追加。皆びっくりしました。マダいけるとは！翌朝食時にも2合のご注文！鉄人か？

事務局長、お世話になりました。糸魚川のみなさん半田のイベントにも是非お越し下さいね。楽しい全国大会ありがと

うございました。最後になりましたが、事務局長より「来年の全国大会は札幌で行いましょう」と締めくくりがありました（写真 4）。ということで来年は札幌大会です。半田のみなさん！来年は札幌にいきましょう。「札幌毛ガニラーメン」か？（小林記）

■NEWS 03

平成 20 年度総会と カフトビールフェスティバル

7月25日、総会とカフトビールフェスティバルが開催されました。10時からの総会では、今回初めて開催した大型プロジェクトのイルミネーション事業等の報告・決算、期待のルーキーを加えての役員選出、そして半田市の3カ年計画を前提とした本格活用へ向けた事業計画などに活発な意見が交わされました。11時からは夏の赤レンガ建物一般公開「カフトビールフェスティバル」を初めて開催！夏らしい真っ青な空、たくさんのヒマワリが見事に咲き誇る中、「夏はやっぱりビール！」という長年の希望がかない、暑い夏の赤レンガ建物の魅力を来場者に伝えることができました。予想以上に大勢のお客様がいらっしや、途中でビールが完売してしまうという、うれしい誤算もありました。また、このフェスティバルは会員の交流事業も兼ねており、赤レンガ建物の行く末をたくさんの支援者と共に大いに語り合うこともでき、この初夏の楽しいひと時は、今後も長く続けて欲しいとの多くのご要望をいただきました。（平岡記）

■ NEWS 04

童話の村秋まつり

9月19日（土）から27日（日）までのうち5日間、童話の村秋まつりと連動して、赤レンガでも一般公開を行いました。矢勝川の彼岸花は少し時期がずれてしまったようですが、連日好天に恵まれ、恒例の名鉄・JRのハイキングでは、気持ちのよい秋晴れの中、大勢のお客様が歩いておられました。お客様には、気持ちのよい日陰で休憩しながら、赤レンガ建物をじっくりと満喫して頂きました。また、喫茶コーナーでは、昨年に引き続き、黒酢のドリンクを提供したところ、大好評で、てんてこ舞いのうれしい忙しさ、高校生倶楽部員・中学生ボランティアのおかげで切り回すことができました。これからも、赤レンガと半田の文化に基づいた商品を開発し、ご来場頂いた多くのお客様に、赤レンガ建物の魅力を感じて頂ける様に、頑張っ

て行きたいと思います。遠方からのお客様も多く、ボランティアガイドの皆さんによる建物ガイド、赤レンガ博物館も大勢のお客様がいらっしやいました。今回も、ボランティアの皆様、学生さん多くの方々力で成功したと思います、皆で心一つにして、赤煉瓦倶楽部を盛り上げて行きましょう！（新海記）



